

ぷらたなす

NO.8

霜月

(しもつき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2025.11.14

もう秋ではないけれど



図書館長より

11月に入り、寒さがぐっと加速して木々が色づいてきました。秋風が吹く中で盛り上がった陸上競技大会も終わり、外で活動する機会がめっきり少なくなった方もいるのではないのでしょうか。「読書の秋」というように、まだまだこの季節は読書にうってつけです。学校の図書館には手軽に読める小説や、じっくり読みたい派の為の長編の本も取り揃えています。また、難しそうな本もありますが、楽しく読める本もたくさんあります。小説を読むのが苦手な人も勉強や部活の合間に読書に親しみ、リフレッシュしてみてはいかがでしょうか。

(1-3 図書委員)

図書委員のおすすめの本

『汝、星のごとく』

凧良 ゆう：著
講談社

今回紹介するのは凧良ゆうさん作・恋愛小説を軸とした作品『汝、星のごとく』です。この小説は、恋愛だけでなく、生き方などを深く切り込んだ小説です。この作品には恋愛感情が書かれているのが特徴です。私はこの小説を書いた凧良ゆうさんの『美しい彼』という作品を読んだことがあるのですが、心情の表現が細かく書かれていて、本に登場する人物たちの成長などを読み取ることができて、感動しました。本作でも心情が細かく書かれており、登場人物の心情の変化を読み取ることができると思います。また、この小説はきっとあなたの記憶に深く残ると思います。ぜひ、手に取って読んでみてください。

(1-3 図書委員)

押忍！ 図書館長です。今回紹介するのは、山辺町出身の新人作家・城戸川りょう（きどかわ・りょう）の新作『高宮麻綾の退職願』（文藝春秋）だ。前作『引継書』からまだ半年ほどしか経っていないが、こんなハイペースで刊行して、健康とか、本業とか、アイデアの在庫とか、色々と大丈夫なのだろうか。

私は前作を「ビジネス小説や（若手社員の）成長小説としては、若干物足りなさを感じた」などと（偉そうに）評したが、今作では完全に兜を脱いだ。eスポーツ大会の公式スポンサーの座を賭けて高宮とその仲間達がライバル企業と鎬を削るという筋立てだが、その起伏が実に巧みで、ページを捲る手が止まらない。ネタバレせずに説明するのは難しいので、窮地に立たされた高宮の落ち込み方と立ち直り方に人間味が増しており、感情移入せずにはいられなかったとだけ言っておこう。

城戸川は、上梓直後のインタビューで、今作の高宮を前作よりも「成長した」と語っている。「やっぱり前作の時は、彼女は周りにめっちゃくちゃ甘えていたんだなと思いました」（『小説丸』10月25日）。これを読んで、

すんと心得した。だから私は、前作の高宮に世間で絶賛されているほどの魅力を（皆に薦めておいて何だが、実は）感じなかったし、今作の高宮を本気で応援したくなったのだ。

今作では遂に（早くも？）高宮達が（何故か山辺町ではなく）米沢市を訪れる場面がある。と言っても、上杉城史苑を散策するでも米沢牛に舌鼓を打つでもなく、描写されたのは、ただ子会社の会議室とつばさの中だけだったが。高宮の本県での本格的な大暴れ、もとい大活躍は、次作以降のお楽しみとしたい。

最後に、山辺町で催された講演会での、皆にも聴かせたいと思った城戸川のことばを紹介しよう。「挫折は過程に過ぎません。やめずに続けていれば、そこは成功への途上です」。蔵書の『引継書』にサインを貰っちゃった。貸出は変わらず可能なので、ぜひ読んでね。